関西学院大学手話言語研究センター『国際フォーラム』参加者・登壇者ツイートまとめ

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

主催：関西学院大学　手話言語研究センター

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

International Forum

国際フォーラム

～手話言語研究の新たな知見～

New Insights from Sign Language Research

基調講演

"Learning a Sign Language"

（手話言語を学ぶということ）

Deborah Chen Pichler

（ギャロデット大学）

パネルディスカッション

"Sign Language Learners"

（手話言語習得者）

Deborah Chen Pichler （ギャロデット大学）

松岡　和美 （慶應義塾大学）

遊佐　典昭 （宮城学院女子大学）

Martin Dale-Hench （NPO法人日本ASL協会）

モデレーター：今西　祐介 （手話言語研究センター研究員）

※使用言語：英語・日本手話

（日英通訳・手話通訳・要約筆記が付きます）

◆日時：2017年7月2日（日）　参加費無料

12:00-16:00（受付11:30～）

◆ 会場：　国際ファッションセンター <Room 111>

（東京都墨田区）

◆ 定員：　100名　（事前申込制 / 先着順）

【お申込方法】

←左記QRコード　または　下記URL よりお申込みください。↓

https://goo.gl/forms/9rYWRKI82L5Batu23

【申込締切】6月23日（金）　※　詳細は裏面をご覧ください。

◆プログラム（予定）

11:30	開場
12:00～12:10	開会の挨拶
12:10～13:25	基調講演　Deborah Chen Pichler
13:25～13:40	休憩
13:40～15:40	パネルディスカッション Deborah Chen Pichler・松岡和美・遊佐典昭・Martin Dale-Hench モデレーター：今西祐介（手話言語研究センター研究員）
15:45～15:50	挨拶　石井靖乃（日本財団）
15:50～16:00	閉会の挨拶

◆登壇者紹介

Deborah Chen Pichler　デボラ・チェン=ピクラー

（ギャロデット大学言語学部　教授）

1998年コネチカット大学大学院言語学部修士課程修了。2001年コネチカット大学大学院言語学部博士課程修了、Ph.D.（言語学）。専門分野は手話言語学における生成文法・モノリンガル/バイリンガル児のL1としてのASL獲得・成人聴者とろう者のL2としてのASL習得。共著 "Acquisition of Sign Language as a Second Language." *The Oxford Handbook of Deaf Studies in Language* (2015) 他、論文多数。

松岡和美（慶應義塾大学経済学部　教授）

1990年筑波大学大学院教育研究科修了（教育学修士）。1998年コネチカット大学大学院言語学部博士課程修了、Ph.D.（言語学）。専門分野は手話言語学（統語論・意味論）・母語の文法発達（モノリンガル・バイリンガル）。著書『日本手話で学ぶ手話言語学の基礎』（くろしお出版　2015年）。

遊佐典昭（宮城学院女子大学学芸学部　教授）

1982年東北大学大学院文学研究科博士課程前期修了。専門分野は理論言語学の観点からの母語獲得、第二言語獲得、言語処理、認知脳科学。共著 "Second-Language Instinct and Instruction Effects: Nature and Nurture in Second-Language Acquisition." Journal of Cognitive Neuroscience (2011) など、著書多数。

Martin Dale-Hench　マーティン・デール=ヘンチ

（NPO法人日本ASL協会　講師）

米国ミシガン州出身。生まれつきのろう者。2009年ギャロデット大学英文学科卒業。2013年より、NPO法人日本ASL協会にてアメリカ手話講師、2016年より明晴学園にて英語/ASLの指導、他にフリーランスの日本語/英語翻訳者として幅広く活躍中。日本手話のみならず日本語にも堪能で、2016年には日本漢字能力検定2級合格。

国際ファッションセンター

〒130-0015 東京都墨田区横綱 1-6-1

Tel: 03-5610-5801　Fax: 03-5610-5810

都営地下鉄大江戸線「両国」駅 A1出口直結

【お問い合わせ先】

関西学院大学　手話言語研究センター

Tel: 0798-54-7013　Fax: 0798-54-7014

Email: slrcenter@kwansei.ac.jp

HP: http://www.kwansei.ac.jp/c_shuwa

松岡 和美 @kazumi_matsuoka　フォローする

関学の国際フォーラム開始。講師にパネリスト、フィーダー付きろう通訳、日英音声、要約筆記に関学のセンター関係者と、打ち合わせからすごい人数

11:09 - 2017年7月2日

松岡 和美 @kazumi_matsuoka　フォローする

関学国際フォーラムチェンピクラー講演。先行研究でも示されているが、コーダ児や成人コーダの「ASLのみ（ささやき声の英語）」「英語のみ（条件節NM）」の発話で観察できる。両方の言語が同時に活性化されている

11:43 - 2017年7月2日

松岡 和美 @kazumi_matsuoka　フォローする

関学国際フォーラムチェンピクラー講演。（自然言語である）ASLを使うバイリンガル人工内耳装用ろう児は、手話を使わない人工内耳装用児と比べて、英語のテストスコアが一貫して高い

11:57 - 2017年7月2日

松岡 和美 @kazumi_matsuoka　フォローする

関学国際フォーラムチェンピクラー講演。ろう家庭の人工内耳装用ろう児（DDCI）の手話使用は音声言語の発達を妨げない。DDCI児のASLの基本語順の獲得はモノリンガルろう児と同じだが、ASL独自の語順の発達は、ネイティブろう児より遅れる。DDCIは劣った手話話者ではなく継承言語話者

11:55 - 2017年7月2日

松岡 和美 @kazumi_matsuoka　フォローする

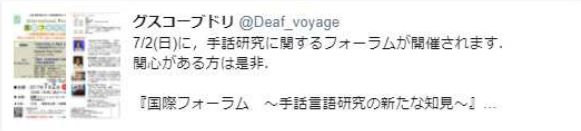
関学国際フォーラムチェンピクラー講演。音声言語の学習者と比べて、ASL学習者は（母語である）英語を話す際のジェスチャーが増加したり、イギリス手話学習者のジェスチャー由来の手話単語で特に音韻エラーが増える（手話単語ではなくジェスチャーと認識）などのL2研究成果が発表されている

12:17 - 2017年7月2日

関西学院大学手話言語研究センター『国際フォーラム』参加者・登壇者ツイートまとめ

えり /さなかん
@sanakan0078
フォローする

今日はこれに参加してきました！とても意義深く、大変面白いフォーラムでした。
「手話(ASL)は書記言語(English)の発達の妨げにならない」
「コーダ(ろう親を持つ聴者の子ども)は幼少期から自然言語として手話を教えるとコードブレンキングで手話と音声言語の切り替えが容易になる」



18:40 - 2017年7月2日

グスコーブドリ
@Deaf_voyage
フォローする

返信先: @sanakan0078さん
ありがとう^^
コードブレンドじゃなくてコードブレンキング？初めて聞きました．

人工内耳の話，北欧のろう者の事を考えると納得しますねー

幼年時に，手話と書記言語を同時に身につけた方が良いと言うことですよねー？
（よく聞くのが「書記言語は中学以降でも遅くない」）

19:17 - 2017年7月2日

えり /さなかん
@sanakan0078
フォローする

返信先: @Deaf_voyageさん
～イングがついていました！
それは人工内耳装用者の幼年期のことですか？同時に音声言語と手話言語に触れると言ったようなものでした。

19:40 - 2017年7月2日

グスコーブドリ
@Deaf_voyage
フォローする

返信先: @sanakan0078さん
あ，コード・ブレンディング(Code-blending)か！
（論文にCode-mixingやCode-switchingと次から次へと新たな専門用語が出てくるので混乱する

あ，いや，人工内耳装着していないろう児のことですー．
1つ目の「妨げにならない」という事に対してですね．

19:49 - 2017年7月2日

えり /さなかん
@sanakan0078
フォローする

「人工内耳でろうの子供は自然言語として手話を第一言語として獲得し、同時に音声言語を獲得すると、人工内耳で手話を第一言語として獲得していない人に比べて書記言語で高い能力を発揮する」(間違ってたらごめんなさい)発表があったのにはびっくり。

18:42 - 2017年7月2日

松岡 和美
@kazumi_matsuoka
フォローする

返信先: @sanakan0078さん
だいたい合っています。2番目のグループは「人工内耳装用で手話言語に接していない子ども」とすればもっと正確です。シムコムやトータルコミュニケーションでは効果がないという情報は、同じ講師が6月の慶應言語学コロキアムの講演で話していました。「自然言語である」手話言語であることがポイント

19:28 - 2017年7月2日

えり /さなかん
@sanakan0078
フォローする

返信先: @kazumi_matsuokaさん
松岡先生、丁寧に回答して下さり、ありがとうございます。
「自然言語としての手話」がミソなんですね。日本に自然言語としての手話で、L1日本手話を獲得→同時に音声言語獲得した人工内耳装用者がいるかどうかも気になりました。
今日はとても面白い発表をして下さり、ありがとうございました！

19:38 - 2017年7月2日

松岡 和美
@kazumi_matsuoka
フォローする

返信先: @sanakan0078さん
この研究を行うためには、人工内耳装用ろう児のいるデフファミリーの協力が不可欠ですが、それが公になっても良いと考えるろう保護者は、アメリカといえどもそう多くはないそうです。なので、日本でそういう親御さんが見つかるかどうかで、研究ができるかどうかも決まってくると思います

19:42 - 2017年7月2日

ふっく
@SeekerCochlear
フォロー中

返信先: @sanakan0078さん
論文など文献はある？あったら教えてください～(・▽・)
実は同じ研究室の京大の先輩からその情報を聞いててすでに知ってたんだけど、その先輩自身がどこから聞いたのか情報源そのものを忘れてしまって聞き出せなかったのです笑

19:57 - 2017年7月2日 場所: 京都 京都市 上京区

グスコーブドリ
@Deaf_voyage
フォローする

返信先: @SeekerCochlearさん、@sanakan0078さん

多分，これかな？
2014年の論文
"Spoken English Language Development Among Native Signing Children With Cochlear Implants"
(PDFあり)
doi.org/10.1093/deafed…

20:05 - 2017年7月2日

ふっく
@SeekerCochlear
フォロー中

返信先: @Deaf_voyageさん、@sanakan0078さん

早速ありがとうございます！
多分、それですね！！

ろう者の脳の仕組みを研究している先輩の見解では、聴覚野と視覚野両方を使っているから、片方しか使っていない子供たちよりも書記言語を獲得する上で有利になったのだろうと。

20:12 - 2017年7月2日 場所: 京都 京都市 上京区

Soya Mori
@SL_at_IDE
フォロー中

ええ、そうだと思います。これがひっくり返って、音声言語をまず獲得させなきゃダメです、手話はその次に学べば良いという説がろう教育関係者の間では信じられているけど、データを見ると違いますよということです。従来の研究の比較のバイアスの問題についても論文では触れられています。

えり /さなかん @sanakan0078
返信先: @sanakan0078さん
「人工内耳でろうの子供は自然言語として手話を第一言語として獲得し、同時に音声言語を獲得すると、人工内耳で手話を第一言語として獲得していない人に比べて書記言語で高い能力を発揮する」(間違ってたらごめんなさい)発表があったのにはびっくり。

20:26 - 2017年7月2日

Soya Mori
@SL_at_IDE
フォロー中

ろう教育の世界では、世間ではとてもおおっぴらには言えないことを、ろう教育の専門性と勘違いして、科学的根拠もないことが、結構平気で行われている。それで通るという閉鎖性や、可笑しいというとあなたは何も現場を知らないからという、これまたどうしようもない論理も。

21:08 - 2017年7月2日

2017年7月2日　東京・両国にて
https://togetter.com/li/1126007